



時事評論家 増田俊男

4月トランプ・習近平首脳会談に向けて草木もなびく

トランプが決めた「米国家安全保障戦略」で目標に定めているのは「西半球の覇権」である。

その為の重要戦略は二つ。

第一は「モンロー主義」、第二は「G2」である。

モンロー主義とは内政不干渉のことで、トランプの自国利益・権益確保の為の国際、国内法無視と成り振り構わぬ脅迫と暴力に対する「口封じ」を意味する。

G2とは Group Two のことでアメリカと中国の二大国で世界の秩序に責任を持つと言う、オバマ大統領時に協議された米中戦略的パートナーシップの延長であり、いわば二大国体制である。

トランプはベネズエラの原油(アメリカにない重油)を支配することが狙いであると言いながらベネズエラに持つ中国の原油権益と原油 80%以上の対中輸出については無言である。

それは、日本と韓国に 7,500 億ドル(日本は 5,500 億ドル)の資金を出させ、利益が見込めないアラスカ天然ガス開発や、AI で高まる電力需要を補うための原子力発電所増設に使うことに決めているように、世界最大の原油埋蔵量のベネズエラ原油開発と生産にアメリカは資金負担することなく中国に資金を使わせ、中国と利益折半する、トランプ流ディールを目論んでいるからである。

中国がトランプのディールに応じなければ中国が投資した油田を国有化するだけである。

「日本と韓国のカネはアメリカのもの」、そして「アメリカのカネはアメリカのもの」。

G2 体制においても「中国のカネはアメリカのもの」、そして「アメリカのカネはアメリカのもの」なのである。

アメリカの対台湾軍事支援も、中国が台湾を実効支配していない事実を背景にした高市発言で中国を激怒させているのも来る 4 月の米中首脳会談(ディール)でトランプを有利に導く。

4 月の米中首脳会談は G2 の第一ページであるからトランプは「入口」から習近平に対して有利な立場になる必要がある。

日米安保で米軍が日本を占領している間に高市は頼台湾総統に先駆け、「台湾は独立国である」と誰の目にも明白な事実を公言すべきだ。

「台湾が独立宣言をしたら即座に台湾に軍事侵攻する」と習近平は宣言しているのだから、憎き高市に台湾独立宣言されたら、尖閣諸島を占領するくらいの武力行使をしなければ習近平の沽券(こけん)にかかわる。

日本の歴代の総理大臣は歴代のアメリカの大統領に「尖閣諸島には日米安保第 5 条が適用される」と繰り返して言ってもらってきた。

高市の台湾独立発言で習近平が尖閣諸島に軍事行動を執れば米中戦争に発展するので習近平は出来ない。

習近平が日本に対して口先だけで軍事行動を執らなければ国家主席の地位を維持するのが難しくなるだろう。

衆院選で自民大勝の後、高市は「鉄の女」になって「張り子の虎」の習近平を追い詰めることが出来る。

高市が日本の独裁者になってトランプ・習近平両巨頭の間割り込んでこそ、日本はアメリカ追従の長き眠りから目覚めることになる。

私の小冊子 Vol. 155 号の第 7 章「アメリカが日本を詰め込んだピンの蓋を開ける時」をお読みください。

お申込みは、<https://www.musrjec.com/>